

ふれあい つながり かわら版

小中一貫のフレームで探究的な学びを進める

カリキュラム・マネジメント

令和五年八月十日(木)、総合教育センタークレアホールにて、第2回小中一貫教育推進担当者会が開催されました。この数年、コロナ禍で動画視聴やオンラインでの開催が続いており、久しぶりの集合型の研修となりました。最初に、大の中ブロック、増位中ブロックから実践発表

がありました。大の中ブロックからは、全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙に着目して、ブロックの子供の実態を把握し、課題に対応する実践の紹介がありました。増位中ブロックからは、3小1中の大規模ブロックとして、共有フォルダを活用した情報の共有化に基づいた実践の紹介がありました。参加者から「両ブロックの発表を参考に、自ブロックでも取り組めるか、話し合いたい。」「自ブロックと似たような取り組みがあつて安心した。」「ブロックならではの取組があり、それを大切にしていることが伝わった。」といった感想が寄せられました。

続いて、國學院大学 田村学 教授から、実践発表の講評と「深い学び、探究、カリマネ」の講演をいただきました。田村教授は、これまでの小中一貫教育の成果と今後の方向性について、各校の現在地を挙手で確認したり、近くの人と対話をするように仕組んだり、担当者の先生方に対して参加型の講演を行いました。

「目の前の子供たちを年間1,000回の授業でどう育てていくか、授業ベースで考えましょう。」と提



探究的な学習を進めると授業改善につながる!

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



「変化のある反復」「自己変容の気づきがある反復」といった工夫を取り入れ、「能動的な反復学習」にすることが大切であると示唆をいただきました。

続いて、総合的な学習の時間において、どのように小中をつなぐかについては、同一ブロック内の小学校で探究課題が異なっているも、「育てたい資質能力をそろえることが大切である」「今あるものを生かしていきたいでしょう。」とご指導いただきました。

先生方からは、「ブランドカリキュラムを意識して授業をしなければと気持ちばかりが先走っていたが、できるペースで進めたらよいとお聞きして、少し気持ちが楽になった。」「カリキュラムの見直しは目標を明確にし、授業を基盤とした取組ができるように、ブロックで知恵を出しあいながら進めたい。」「高校で探究の時間が非常に重視されているという話が印象的で、小学校での生活科や総合的な学習の取組を、中学校でも引きついでいくことの大切さを感じた。」といった感想が寄せられました。

会の終わりには、「田村教授の話を聞いて、メラメラしている。でも、周りの職員にどのように伝えるとうまく伝わるのか悩んでいる。」という担当者に対して、「大きな組織を動かすには、3人の同志が必要である。仲間を作って管理職を巻き込みましょう。」と田村教授から熱いメッセージが送られました。



担当者の参加による「田村教授に聞きたい10のこと」

家島小学校 校内研修「Over the sea つみを越えて魅力を伝えよう」

令和五年七月十四日(金)に、家島小学校で校内研修が行われました。家島小学校は、十月十三日(金)に第七十二回全国へき地教育研究大会兵庫大会で授業公開を行います。



「食」「産業」「安心」「生き物」の探究課題に分かれて活動

公開授業の一つに「家島うみの時間」という家島の海に関する体験的、探究的な活動に取り組む総合的な学習の時間があります。家島小学校は、児童数の少ないことを逆手にとり、異学年で協力して取り組むことができる「強み」として、総合的な学習の時間を4年生から6年生の縦割りテーマごとに4つのグループに分けて、学習を進めています。

白鷺小中学校 校内研修「各教科と総合的な学習を往還させた探究のサイクルをつくろう」

令和五年八月二日(水)に、白鷺小中学校で校内研修が行われました。白鷺小中学校は、令和七年度の義務教育学校実践発表会に向けて、「探究し続ける児童生徒の育成」を目指し、生活・総合的な学習の時間を核とした9年間をつなぐカリキュラムづくりの研究を進めています。育成を目指す9つの資質能力を生活・総合的な学習の時間を通して、どのように具現化を図るかを考えることで、各学年の探究課題を検討しました。



授業時間が70時間あれば探究は2サイクルいける